

# 2019年度水環境文化賞を受賞して

堂々川ホタル同好会 会長 土肥 徳之

新型コロナ拡大では関係各位のご尽力に心より敬意を表したいと思います。

会の紹介と活動「ホタルと花と砂留と」

堂々川は、広島県福山市北東部・岡山県境に近い大原池付近を源流域として高屋川に流れこむ、約4 kmの小支ながら、江戸時代には土石流で63名の命を奪った事例を持つ砂川です。普段は水の流れもない天井川だが、一雨降れば暴れ川に転じる。その川を約15年前から整備し始め、子どもたちと一緒に彼岸花を植栽し始めて10年が経過。中国地方最大の里にする目標で活動し「あと一步」のところ。木や草で覆われた砂留は、初夏にはホタルが舞い、秋には彼岸花が咲く観光地に変貌し、貴重な絶滅危惧種も住む自然環境の保たれた地として注目を集めている。

我々は会則に則り定例作業等を実施したことを即情報紙で発信してきた。つまり芦田川二次支流堂々川の中流域一帯の清流を①ホタル等多様な生き物が住める環境に整備・保護する②桜や紅葉の花木も植え不法投棄や「ごみを捨てさせない」環境づくりをする③専門家と共に、江戸時代に築造された砂留（国の登録有形文化財）の見守りをする。言うならば自然環境と景観美の追求、歴史建造物の保護に努め、下流の人々の安心・安全を担保し、ホタルの里、彼岸花の里づくり等を通して子どもたちの将来の夢を育むことである。

わらしべ長者

2004年、退職後のライフワークに歴史や生物への興味もあり、お年寄や子どもにも人気のあるホタルをこの地に飛ばすことを思いついた。ホタルについて学びながらホタルの餌のカワニナを放流したら、翌年の初夏、約50匹のホタルが舞い、2006年4月に仲間と堂々川ホタル同好会を設立した。

幸運の始まりは発起人が拾い集めたごみの傍で、今後の計画を砂留上で打合せしていたら、福山市の車が止まり、「皆がその気なら市は全力で応援するよ」と言われて立ち去られた。暫くして砂留の下流500 mの川中のごみがすべて除去されていた。4トン車トラック2台分ぐらい。福山市と合併間もない頃なので何が起こったかわからない……。とにかく市へ感謝の言葉を伝えたが誰だか分からなかった。後日、要職の人と判明した。

続いて、環境団体として活動するため県のラブリバー団体に申請していたら、会設立前に認定という知らせが届き、年度末には環境省の外郭団体からホタルンジャー優秀賞が決定したと朗報が入り大喜び。会員1号の小学生を含む3家族の子どもたちで、大人に交じってピオトープづくりに参加した体験や感想を中心にレポートしたのが評価され、ホタルンジャー優秀賞（環境大臣賞）の受賞。市・県・国へと順に広がり、我々の活動と交換に大きな賞に繋がっていったのです。

黄色い光に魅せられて

堂々川は草や木がうっそうと生い茂り、砂留は緑に覆われた壁のように水流も見えず、支流の谷間からは黒い

水が流れだし「ホタルを飛ばす」ということは無理な状況だった。それでも草刈り機やチェーンソーが活動し、ごみを拾い、福山市が募集したキーワードモデル事業に応募し資金を得、4番砂留川原にピオトープを造った。翌年5月には黄色い光が飛び交うと多くの鑑賞者が訪れた。川のせせらぎと香りは格別だったと当時を述懐する。不思議なもので入会依頼をして拒否した人に「ホタルが飛んだよ」と声を掛けたら、即20人程が入会してくれた。黄色い光は魅力があることを改めて知ったのです。

不法投棄撲滅作戦

景観美を会則で定めた中流域1.5 kmは、人家もなく砂留8基は山の中にあり、公園はあっても当時は散歩する人もいない荒れ果てた地。ウグイスやメジロ等の鳥もわずかで木魂が響く寂しい所であった。会員の一部から「もうやめようよ」の声が出始めたが、「どうすれば不法投棄はなくなるか」とアンケートを取って対策を模索した。①きれいな所にはごみは捨てにくいので花を植える②神社の鳥居のミニチュアを建てる③警察に巡視を頼む④皆で監視をする等の声から採用案は山野草を植えることにした。当初はアジサイ、続いて山野草。これらすべて失敗。害獣対策も考え、球根に毒がある彼岸花で落ち着いた。2010年からは近隣の小学生が遠足を利用して球根を植えてくれた。3年間は植えた球根を猪は掘り起こすことはなかったが、学習するうち、球根を食べはしないが耕すことを始めた。どちらが勝つか、我慢比べをされていて気づいた時にはすごいことになっていた。彼岸花の里広島県NO.1が見えてきていたのだ。

小学生とボランティアがごみの川を観光地に

彼岸花は年毎に5万本から10万本へ。去年は18万本と花数が増加すると不法投棄を防ぐ監視の目も増え、川にはプラごみも減少、13年続けている水質調査も「ランクⅢの汚い水からややきれいなランクⅡの水」になり、地域にも貢献できている。

10年前には散歩する人もいなかった堂々川が、今では多くの人が散歩やグラウンドゴルフにやってくる。しかしポイ捨てごみは相変わらず続いており、10年経った今、高齢になった会員の後姿には白いものが見え始め、作業もきつくなっているが、近年は意気に感じる高校生や大学生の参加もあって、我々は堂々川の3つのお宝「ホタルと花と砂留と」を守ることは当たり前として活動している。

今回の文化賞をいただけたことは、私たち会員にエールを送っていただいたものと非常に喜んでます。ありがとうございました。



写真1 2006年の上流域



写真2 2019年の5番砂留